

2015年12月

第63号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

TPP(環太平洋経済提携協定)の大筋合意について

日米を含む12カ国によるTPP交渉が10月5日大筋合意に達した。

アトランタでの最後の交渉では新薬開発を数多く手がけている米国と後発医薬品(ジェネリック)を早く利用したいオーストラリアがその保護期間(米国12年・豪州5年主張)をめぐる鋭く対立し、合意先送りの空気も流れたが甘利大臣が「何を駆け引きのようなゲームをしているんだ!俺たちが倒れたらTPPはダメになるぞ」と交渉促進を強く呼びかけ大筋合意に達したと言われている。交渉が始まって5年、日本が参加してから2年余りの月日が流れた。乳製品や医薬品での埋め難い溝を最終的に克服できたのは、参加12カ国が自国に有利な主張に固執せず、目先の損得よりも透明なルール策定を優先する大局的な判断によるものだ。

参加12カ国の国内総生産は3100兆円にも及び、世界全体の約4割を占め、総人口は8億人を超え、欧州連合(EU)の市場規模をはるかに上回る巨大な自由貿易圏が実現することとなる。

TPPの意義は、高い水準の貿易・投資の自由化とルールにある。物品の関税撤廃・削減だけでなく、投資、サービス、知的財産権など範囲は多岐にわたる。環境、労働、国有企業のあり方を含む「21世紀型の通商協定のモデル」と言える。自由、民主主義、基本的人権といった普遍的価値を共有する国々との間で経済的相互依存を深めることは、地域の安定にも資することになる。

わが国では、TPP交渉に参加するにあたって「重要5品目(コメ、麦、砂糖類、牛・豚肉、乳製品)」を「聖域」として関税撤廃から守る、ことを命題として掲げ取り組んできたが、現行の輸入制限の大枠を維持しながら、無税の輸入枠の設定や関税率の引き下げを約束することで他の交渉参加国の合意を取り付けてきた経緯があり、今後「関税撤廃圧力」が再燃する可能性もある。

農林水産物の輸入枠が拡大し国内価格が引き下げられれば、消費者には朗報となり、他方、国内生産者にとっては輸入競争の激化による悪影響が懸念される。TPP全体では域内のヒト、モノ、カネ、サービスが自由に行き来しやすくなることで、日本のGDP(国内総生産)を2%押し上げるとの試算もある。

今後はTPPで得られる自由貿易ルールを活かし国内の構造改革を進め経済の活性化につなげる必要がある。農業の市場開放緩和に伴う「農業対策」も急がなければならない。1994年にまとめたウルグアイ・ラウンド対策では事業ベースで6兆円超を投じたものの農業の体質強化には繋がらなかったとの指摘もある。総じて国内生産者を輸入競争から守る姿勢が目立つが、バラマキではなく、コメの生産調整(減反)廃止や、農業の生産性向上・輸出市場拡大を図る攻めの農林水産政策を推進していただきたい。

自らを拝む



平澤 興 語録より

人生において、道の体得ということは、頭で理解することとは違う。言葉の説明以上にこれを体で覚え、日々の生活の中で、実行するところまでゆかねばならぬ。実行して体で覚えねばならない。そこまでゆかねばほんものにはならぬ。

ある一事を通して、ものの深さを知る事が出来れば、その目、その頭で万事を考えるようになる。そしてその真実に近づけるのである。

人生に無駄のないことを知るには、やすらぎの中におそろしいほどの鋭敏さと、限らない真心と、燃えるような実行力がなによりも大切である。

経験を大切にしながらも、経験にとらわれない、にごりのない清らかな澄んだ目が必要である。

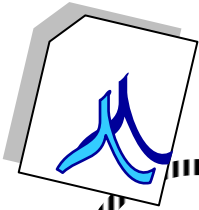
今日一日の生活、実行こそが人生のすべてである。

この実行こそが、われわれに絶えざる希望と、道を求めてやまぬ情熱を湧きたたせてくれるのである。

人間に生まれたことを本当に感謝し、その幸せを喜び、まあ、へまばかりやって来たが、しかし私は私なりに一生懸命生きてきた、更に、自分もご苦労であったが、他人様のご苦労もよくわかる、こういう風に思うようになると、この自分を拝み、人様も拝むことが出来るようになる。

自分を拝む、その自分は無数の可能性をもっており、素晴らしい創造力、かけがえのない霊性(心)をもっておる。このように尊い自分である。

自らを拝むことは感謝報恩の前提である。



北里 柴三郎 (日本の医学者・細菌学者)

- 嘉永5年12月20日(1853年) 熊本県阿蘇郡小国町に生まれる。
父惟保(これのぶ)は庄屋、温厚篤実。母は豊後森藩士の娘。柴三郎の教育に関しては、親戚に預け甘えを許さず厳しい躰を依頼した。8歳から2年間伯父の漢学者から四書五経を学ぶ。
その後4年間儒学者園田保塾で漢籍や国書を学ぶ。
- 1869年 細川藩の藩校時習館に入学。翌年廃校。
1870年 熊本医学校に入学。本格的に医学に目覚めた。
教師マンスフェルトに出会う。
- 1875年(明治8年) 東京医学校(現・東京大学医学部)へ進学。
1883年(明治16年) 医学士となる。
1885年(明治18年) ドイツベルリン大学へ留学。コッホに師事し業績を上げた。
- 1889年(明治22年) 世界で初めて破傷風菌純粋培養法に成功。
1890年(明治23年) 血清療法をジフテリアに応用、同僚のベーリングと連名で「動物におけるジフテリア免疫と破傷風免疫の成立について」という論文発表。第1回ノーベル生理学・医学賞の候補となる。
- 1894年(明治27年) 香港でペスト菌を発見。
1914年(大正3年) 私立北里研究所設立。
1917年(大正6年) 慶應義塾大学医学部創設。初代医学部長となる。
1923年(大正12年) 医師法に基づく日本医師会初代会長となる。
1931年(昭和6年)6月13日 脳溢血で死亡(78歳) 勲一等旭日大綬章。

オススメのBOOK



『終わった人』

作者 内館 牧子 講談社

作者は秋田県出身。女性で初めて大相撲「横綱審議委員」となった異色人。本書の主人公は、岩手県出身で東京大学卒、一流銀行の役員寸前で子会社へ出向。63歳で定年を迎え、定年後悠々自適に過ごす人もいるが、何もすることがない毎日に悶々としている。ハローワークにも足を運ぶが経歴を見て中小企業は敬遠する。

そうした中でひょっとしたきっかけから30代の社長が経営する会社を手伝うこととなった。若い女性にちょっと心が動く。怪しい心の動き。
大丈夫?お父さん。奥さんは生き生きと我が道をゆく。

くらしと保険のおはなし

交通事故の過失割合とは？

交通事故の原因として最も多いのは「安全不確認」次いで「脇見運転」、「動静不注視（他車などには気付いていたが、危険性を感じずにその動きを注視しなかったこと）」となっており、これらのような安全運転義務違反が事故の殆どを占めています。

それでは、事故が起こった場合、過失割合は誰がどのように決めるのでしょうか？

事故の連絡をすると警察官が現場に駆けつけ、現場確認と当事者からの状況確認を行い、事故の事実を記録してくれます。しかし、その後の過失割合の決定に警察が介入することはありません。

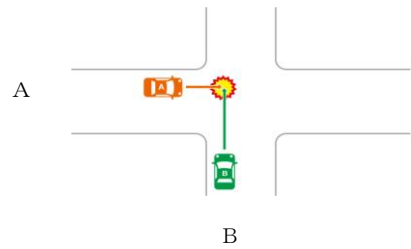
当事者双方に過失のある事故の場合、通常は当事者が契約している保険会社の担当者が話し合い、過失割合を決定します。

過失割合の決定は民事上の問題のため、当事者が契約する保険会社が協議しますがその話し合いの基準となるのは過去の裁判例です。実際の事故と類似した裁判例を基準とし、事故状況に応じて割合を修正しながら決定するのが一般的です。

裁判例という基準があるため、契約する保険会社などによって過失割合の交渉が有利・不利になるということはありません。

意外と多い身近に起こっている事故の過失割合について事例をみてみましょう。

道路幅が同じで、信号機なしの図のような事故の過失割合は？



《過失割合 A：40% B：60%》

車幅がほぼ同じ道路の場合、標識や標示で指定されていない限り、どちらが優先ということはありません。このような道路の交差点で交通整理が行われていない（信号機がない）時は交差点に先入した方が優先となります。

図ではAの車が交差点に先入しており、Bの車が優先順位を守らなかったことから過失割合はAが40%、Bが60%となります。

過失割合が比較的近く、双方に非が与えられるのは交通整理が行われていない交差点において、進入する際は左右の確認が義務付けられていることが理由です。このケースではどちらも進入する車を目視できるので事故を回避する可能性が十分であると判断されます。

Aの方がBを目視できるので、仮にAが加速を行って事故回避を怠ったと判断された時は過失割合が逆転し、Aが60%でBが40%となります。また、Aが交差点へ先入しているにも関わらずBが減速をせず、加速した場合はAが20%に減算、Bは80%まで加算されます。



【編集後記】

「ゆめぴりか」「晴天の霹靂」「つや姫」いま活躍している、北海道・青森県・山形県産のお米の名前だ。

ひところは「秋田こまち」も健闘していたが最近では前者に価格でも味でも後塵を拝している。

そもそも、北海道や青森は気象条件の関係から冷害を受けやすくブランド米を搬出できなかった。しかし、年月をかけて品質改良に取り組むそれが成功を見ているのである。努力の賜物だ。

ところで世界の米作で単位当たり一番の収穫を上げている国はどこだと思いますか。コメといえば米国やタイを思い浮かべるとと思いますが、聞いてびっくり「エジプト」なんですよ。我が国も頑張らなくちゃ